

「生きる力」を育む学校集会等講話と学校だより

足利市立第三中学校 高橋 知俊

1 はじめに

「校長は挨拶・講話で勝負する。」「校長にとって挨拶・講話が授業である。」「校長は挨拶・講話で生徒を育てる。」今までに先輩校長からいただいた御指導である。平成12年10月、校長着任と同時に、即、脳裏をよぎったことがこれらのことである。

特に、その中でも、月1度の学校集会講話と儀式的行事等の講話(式辞)、つまり、直接、生徒に対するものをどうするか、どのような内容の話をしたらいいのかであった。

数日間考えた結果、ひとつの結論を出した。それは、「年間を通しての講話等は大きなテーマに基づいて実施することが肝要」ととらえ、これらの各種講話の共通テーマを「生きる力の育成」にしていこうということであった。平成14年度から、「生徒の生きる力」育成をめざし、新しい教育課程を完全実施する。校長の講話等もそのためであることが必要と考えたからである。当然のこと、学校教育目標の具現をめざしてのものである。

以来、1年間、生徒に「生きる力」を育成するための学校集会等の講話を実施してきた。さらに、学校集会等の講話を生かすため、生徒のよりよき成長を図るため、学校だよりを月数号発行してきた。

この1年間、学校集会等講話、学校だよりによる校長の話に心血を注いできたが、果たしてどうであったのか、生徒の日々の生活に役立っているのかどうか、不安がつきまわっていた。今までは、自己評価だけであったため、ややもすると、自己満足に陥ったり、自惚れたりする危険が多分にあった。

1年が過ぎたのを機会に、生徒、保護者、教職員の感想等をもとに今までの実践を振り返り、「生徒の日々の生活に役立つ学校集会等講話」「生徒の成長につながる学校だより発行」を改めてめざしてみよう、と、以下、まとめてみた。

ぞれゆけ三中

第三中学校だより 平成13年1月9日 発行者 高橋知俊

自分の心の運転手は自分で

保護者の巻頭
お本と御挨拶
お本と御挨拶
三中職員同

本気志本席本物
本のつくりは
いい

世紀越えをしました。その世紀を越えた時の除夜の鐘を聞きながら、私は考えました。

人間には108の煩惱があると言われていいます。人間の心の中にはだれにも「よい心」と「悪い心」が同居しています。悪い心が煩惱です。

「三中生のみなさんは、これからもいろいろ悩んだり、悪い心と向かえ合うことがあるのだろうな。」と思いました。でも、みなさんは、

「その悪い心に負けないで、自分の心を自分でうまく運転していってくれる。」と思いました。悪い誘惑に負けない。わがままをしない。少しのことで弱音をばかさない。へこたれない。三中生のみなさんなら、「最終的には、自分できちんと正しく判断し、自分で正しく心を決めてくれる。」こう思うと同時に願いました。

自分の心を運転する時、気をつけなければならないことは、「あわてないこと、時には、じっくりと考えてから判断すること。」だと考えます。

スピードの出過ぎばかりでは、回りがよく見えません。時には、スピードをゆるめること、できれば止まるのが大切です。「歩く」という字は「少し止まる。」と書くんですね。止まると回りがよく見えるんです。

「正しい」という字は「一つ止まる。」と書きます。ちょっと止まって考えると、正しい判断ができるんです。

いろいろな生活場面で、自分でじっくりと考え、自分で正しく判断し、自分の力で行動する。これは人間でなければできません。みなさんは今、大人になる練習中です。自分の心を自分で正しく運転する練習を続けてください。『自分が自分の心の運転手』なんです。

第3学期もいろいろと自分の力で努力していきましょう。

3年生のみなさん、今の自分のおかれている状況に負けないでください。心から応援をしています。



9日 第3学期始業式挨拶

2 学校教育目標と本校の「生きる力」

本校の学校教育目標「より確かに、より豊かに、より逞しく」（合い言葉ー学力アップ・心の温かさアップ・元気アップ）はまさに「生きる力」育成をめざしている。「生きる力」、それは「子どもが自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力。」であるが、これを、本校の生徒の実態等をふまえ、次のように「本校の生きる力」として設定した。

① 生徒の実態

総じて明朗快活な生徒が多く、教員・生徒間、生徒同志の関係は良好であり、いじめ等によるトラブルは少ない。学習意欲は全般的にはそう高くはない。授業における学習態度は受け身的であり、指示待ち傾向が強い。各種学校行事・生徒会行事の学級のまとまりはよい方であり、意欲的に参加活動する。運動による体力づくり等は個人差が大きく、全般的には根気強さ、忍耐強さに欠ける。

ア 生徒の自主性・主体性等・・・個人差は当然あるが、総じて受け身的であり、指示を受ければその生徒なりに活動することができる。教員の支援の工夫、生徒の意欲・関心などに問題があるようである。

イ 生徒の連帯感等・・・各種学校行事・生徒会行事における学級のまとまり、協調性は課題はあるがよい方であり、さらに伸ばしたいものである。

ウ 生徒の心身の健康等づくり・・・全般的には運動等による根気強さに欠ける。多面的な方策を考えなければならないであろう。

② 本校の「生きる力」

生徒の実態等から、生徒に特に身につけさせたい次の力を「本校の生きる力」と設定し、学校の全教育活動で育成する。

ア 疑問を持ち、解決するまでねばり強く学習する力（自主性・主体性・課題解決能力・判断力・知性等）

イ 互いの存在を認め学級を中心に協力する力（連帯感・協調社会常識・道徳性）

ウ 苦しくとも何事、自分なりにやり抜く力（根気強さ・健康）

もっと咲かそう自分の花

先週、突然、大学の同級生（宇都宮高の教員）の訪問を受けました。10数年ぶりの再会でした。足利市民会館への出張の途中のため、15分程度の話でした。玄関で見送る時、彼は、階段でふたりの3年生が「こんにちは」と明るくさわやかに挨拶してくれたことと、玄関前の咲き誇っている花々のことに感銘し、「いい学校だね。」と行って第三中学校を後にしました。

本校の花々は技能員の新井さんが年間通して、丹精込めて育てているものばかりです。市内の小中学校の中でも、たぶん、こんなに多くの花々が咲いているところはあまりありませんね。

ところで、皆さんの花はいかがですか、「皆さんひとりひとりの花」、つまりは『皆さん個人のよさ』のことです。明るく「こんにちは」とあいさつしてくれた3年女子のふたりは「自分のよさの花」が咲いていましたね。しかも、自然によさがでているところがすばらしいですね。駅伝の練習を一生懸命している皆さんも我慢強くがんばっているという「その人のよさ」が咲いていますね。昨日の保育園の運動会でのお手伝いをしてくれた生徒の皆さんのよさも咲いていましたね。部活動の練習を見ている、たくさんさんのよさの花が咲いていて、つい目を細めてしまいます。

だれにでも『その人なりのよさ』がたくさんあります。自分のよさをおおいに日々の生活で、出していくことが自分をもっともっとすばらしい人にしていくのです。そうすることが日々の生活をより充実したものにしていくのだと思います。皆さんそれぞれが、いろいろな場面で、きっと「よさの花」を咲かせていることでしょう。これからも自分のよさの花をもっともっとたくさん咲かせてみてください。第三中学校がまさに百花りょう乱（いろいろな花が一面に咲く様子）になるように・・・。



3 実践事例

(1) 学校集会等講話

「おはようございます。」で始まる朝の学校集会は、校長が全生徒に話をする数少ない機会であり、意義ある時間である。だからこそ、校長は十二分な準備をし、この集会に臨まなければならないと考える。まさに、「校長の授業」である。生徒のみならず、教職員も校長の講話に耳を傾ける。その講話の内容がどうであるか、価値ある話であるかどうか、暗黙の評価を受けているわけである。短時間の、それも、数分という短い時間の授業である。この短い時間でまとまった、生徒の生活に良い影響を与える話をしなければならないわけである。

① 講話内容は「生徒の生きる力」育成にかかわることとする。

本校生徒の実態等から、「本校の生きる力」を設定したが、この生きる力を構成する要素に視点をあてて、内容を考える。日々の生活等にかかわる注意は避け、全般的には、「生徒が前向きに生活する。」よう仕向ける内容に心がける。講話時間は3分程度とする。(入学式、卒業式式辞は除く。)

② 生徒にとって、講話内容が分かりやすいように視覚に訴える。

講話の中味には、耳で聞くだけではわかりにくい言葉等が出てくることがある。たとえば「一笑は百慮を忘れる」、「歩くとは少し止まると書く。」などである。これらは、移動黒板を使用して生徒の目に訴え、簡単な説明が必要となる。また、意味はわかりやすくても、特に、注目させたい言葉は大きく板書すると効果的である。

- 右の集会講話は問いかけ式とした。「情けは人の為ならず」の意味を生徒に聞いてみた。3名の生徒が正解であった。3名には田沼和紙のしおりを贈呈し、全員で賞賛した。猛暑の中だったが生徒の関心があった。

情けは人の為ならず

【思いやりが充満している学校】めざして

3日学校集会の話

問題を出します。この諺(ことわざ)『情けは人の為ならず。』の意味を知っていますか。

第三中学校の教育目標のひとつに「より豊かに」(合い言葉・心の温かさアップ)があります。第三中学校の皆さんが「心やさしい、思いやりのある人」になってもらいたいという学校職員の願いです。

さて、1学期があと1ヶ月足らずとなりました。これまでの1学期において、皆さんの「心の温かさ」はどれくらいアップしたでしょうか。皆さん自身が一番よくわかっていることと思います。心の温かさを自分で知る場面はいろいろとありますね。

「困った顔をしている人に声をかけられましたか。」「学級で、班で活動するとき、協力できましたか。」「学級の係の人のお願いをよく聞き、行動しましたか。」「図書室で、他の人の読書に迷惑をかけませんでしたか。」「学校の備品などを使った時、あとの人のためきちんと整頓していましたか。」「他の学級が話し合いをしている時、廊下で、大きな声を出さなかったですか。」などいろいろありますね。

「心の温かさ」は数量で表すことができません。人の心の中の様子ですから、人のその時その時の判断ですから、数量では表せないのです。表すとすれば、「おおよそよい、ふつう、よくない」ぐらいの言い方でしかできませんね。大切なことは、皆さんひとりひとりがいかに、他の人に対して(家族も含む)思いやりをもって接するかどうかだと思います。

「情けは人の為ならず。」の意味は「人に対してやさしくしておけば、いずれめぐりめぐって自分のためになる。だから、人にはどんなときにも、親切にしておいたほうがよい。」です。どうですか、まちがいがやすいのは「人に情けをかけると、その人のためにならないから、人にはやさしくすべきではない。」です。

どうぞ、これからの生活でも、より「心の温かさアップ」をめざしてください。「思いやりが充満している学校」、私たち第三中学校教職員がめざしている学校です。



(2) 学校だよりによる校長の話

学校だよりは、校長着任（平成12年10月）以来、「それゆけ三中」と命名し、月数を不定期に発行してきた。（A4一枚の大きさ）学校だよりは、学校の考え、学校行事・各種出来事、生徒の日々の生活の様子等を保護者に伝えることが、本来の目的なのであろう。

しかし、本校の学校だよりは、基本的には①その多くを生徒向けとし、生徒の前向きな生活を願っての内容を主としている。②各種集会等講話、儀式的行事式辞等をすべてそのまま学校だよりで保護者に伝える。ことを特色としている。

① 内容の基本的なことは「生きる力」育成にかかわることとする。

学校集会等講話と同様に、学校だよりによる話も「本校の生きる力」を構成する要素に視点をあて、その内容を考える。たよりの多くは生徒向けなので、表現も当然生徒に対するものであり、分量も30行前後が適切と考えている。

② 学校集会等講話、儀式的行事式辞をそのまま学校だよりの内容として発行し、保護者に「校長が生徒に話していること。」を伝える。

- 右の学校だよりを配布した次の日に、ふたりの三年女子生徒が校長室に来た。そのひとは、数ヶ月前、部活動で問題が生じ、悩み退部した生徒であった。おしゃべりをしたあと、帰り際に「だから、あなたも生きぬいて」という本を貸してあげた。

数日後、本の返却時、手紙が添えられていた。

「…はじめは怖かったけれど、読むにつれて、そういう気持ちから感動へと変わっていきました。そして、とても勇気や希望というものを与えられました。私は受験の事で不安だったりして、とても悩んだりしていました。

しかし、この本を読んで、「人間は、頑張れば頑張った分だけ自分が得をする。」などのことに気づかされました。悪いことをすれば、必ず

今こそ出発点

人生とは毎日が訓練である
わたくし自身の訓練の場である
失敗もできる訓練の場である
生きているを喜ぶ訓練の場である

今この幸せを喜ぶこともなく
いつどこで幸せになれるか
この喜びをもとに全力で進めよう

わたくし自身の将来は
今この瞬間ここにある
今ここで頑張らずにいつ頑張る

京都大仙院 尾関宗園

言葉が人を変える

一年前頃読んだ「だから、あなたも生きぬいて」（大平光代著）を改めて読んでみました。読んだ人もいるでしょう。読まなくても話題として聞いた人もいるでしょう。（読みたい人は貸しますので校長室へどうぞ）

この作者・大平光代さんは左の言葉がある人からいただいて、自分の生き方を変えていったのです。その変え方は実にすごいものです。ただただすばらしいの一語です。

私達はどこかで、何かで「胸うつ言葉」に出会うことがあります。その言葉が自分を、自分の生き方をすばらしく変えることがあるのです。

もうひとつ、紹介しましょう。言葉の紹介です。足利市出身の相田みつをさんの美術館が東京銀座にあります。ある人が相田さんの作品（詩）を見ながら涙を流しているということを知りました。その作品は下記のもです。

道 みつを

長い人生にはなあ
どんなに避けようとしても
どうしても通らなければ
ならぬ道――――
てものがあるんだな

そんなときは その道を
黙って歩くことだな
愚痴や弱音を吐かないでな

黙って歩くんだよ
ただ黙って――
涙なんか見せちゃダメだぜ！！

そしてなあ その時なんだよ
人間としてのいのちの根が
ふかくなるのは・・・

（校長室にこの詩が書かれた色紙があります。）

ちょっとむずかしいことかもしれませんが、中学生の皆さんならわかると思います。紹介してみました。

自分が損をして、いいことをすれば、いつか必ず自分が得をするのです。小さいことでも一生懸命頑張っていれば、きっと、大きな幸せが待っているにちがいません。私は、こういう希望をこの本から得ました。そして、これからの入試を、勉強を一生懸命やれば、必ず自分の希望通りの所に入れるような気がします。受験、そして、高校入学、私にとって新しいスタート、新しい道を歩むためには、今しかないと思っています。今、あきらめたら新しい道は歩めない。しかし、今、頑張り続けたら、必ず新しい道を歩める。先に進めるのです。そう信じて、今、少しずつ少しずつ頑張っていきます。時には集中できないときもあると思いますが、これから、この本で 学んだことを忘れず頑張っていきたいです。私がかこう思うことができたのも、すべて校長先生のおかげです。校長先生とこの本に出会うことがなかったなら、気持ちを入れ替えることはできませんでした。ありがとうございました。また、おすすめの本がありましたらお願いします。」(原文のまま)

いろいろと悩んでいた生徒の変容を喜び、今後の前向きな生活の継続を祈った。1ヶ月後の保護者の無記名感想アンケートで、ある保護者から「9月14日発行のそれゆけ三中は娘の部屋に飾ってあります。時々、私も娘も読み返しています。」というものをいただいた。この生徒の親なのであろうか。

目標を持って...

第三中学校の正門を入った所に円形の花壇があります。その中に山本有三の「路傍の石」に書かれている有名なことばの碑があります。先日、この学校で話題になりました。次のことばです。

たった一人しかない自分を
たった一度しかない人生を
ほんとうに生かさなかつたら
人間生まれてきたかいがないじゃないか



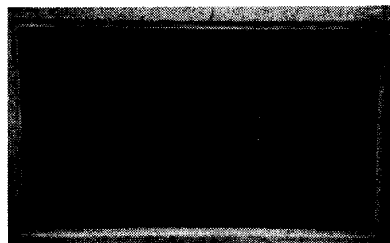
自分の人生を生かすかどうかのスタートは「自分の目標を持つ」ことではないかと思えます。その目標めざして、その人なりの努力をしていくことが貴重なものと考えます。その目標は実現できたら、また、次の目標が出てくるものです。その過程が大切なのです。

大リーグで活躍しているイチローが、アメリカの多くの子供達に「自分の目標を持ってほしい。」と話しました。

目標を持って努力していくことは、当然のこと、つらいこともあります。楽しいことばかりではありません。つらいことを乗り越えてこそ本当の喜びがあるものです。

話は変わりますが、先日、大阪教育大学付属小学校で、悲惨な小学生刺殺事件がありました。8名という尊い命が、数分で奪われてしまいました。その小学生の通夜で、あるお父さんは「我が子のためにも、皆さんは精一杯生きてください。」別のお父さんは「夢を持って生きてください。」と話されました。涙が止まりませんでした。自分の夢を、目標を、これから実現しようと胸をときめかせていた子供の尊い命を奪った犯人に、ただただ強い憤りを感じます。

生きることが、自分の人生を大切にしていけることが、私たちひとりひとりの最大前提目標です。その上で、どうぞ、自分の目標を持って、日々の時間を大切に生活して行ってください。



○ 左の学校だよりは数日前に、「米百俵」を話題にした時、山本有三（米百俵を世に広めた人）にふれたので、その続号として発行したものである。

学校だよりの内容を考える時、生徒の周辺（学校内）に意外と貴重な材料があるものである。その後、格技場に掲げられている刻字「克己復礼」（漆原芳三先生作）を題材とし、礼儀について生徒に考えさせた。日々、何気なく目にしているものでも、扱い方により、新鮮なものになる。

(3) 学校集会講話、学校だよりについての感想等

① 生徒の感じ方

帰りの短学活で、生徒全員に集会・学校だよりの感想アンケートを実施した。

集 会	学校集会の話は・長い (95名)、ちょうどよい (245名)、短い (5名)
	話し方はどうですか・よい (145名)、ふつう (188名)、悪い (12名)
	話はためになりますか・はい (168名)、時々 (166名)、いいえ (12名)
た よ り	皆さんは読みますか・いつも (201名)、時々 (114名)、いいえ (30名)
	わかりいいですか・はい (175名)、時には (134名)、いいえ (36名)
	内容はためになりますか・はい (167名)、時々 (136名)、いいえ (42名)
	家の人に見せますか・いつも (268名)、時々 (53名)、いいえ (24名)

② 保護者の感想等

176名の保護者から無記名の学校だよりアンケートの回答をいただいた。

週1回程度のたよりをほとんど読む (135名) 時々 (40名) 読まない (1名)
書き方はわかりいい (114名) ふつう (60名) わかりにくい (2名)
内容はためになる (104名) 時々は (70名) ならない (2名)
家族で内容について話題にする (80名) 時々は (65名) しない (31名)

67名の保護者から感想までいただいた。そのすべてが励ましの、今後の学校だより発行に参考となるものばかりであった。以下はその一例である。

- ・ 子どもたちを、いつも温かく見守ってくださっていることが感じられ、とてもうれしく思っています。中学校生活を本当に楽しんでいる子どもの姿を見ますと三中でよかったと思います。
- ・ 毎回読むことで、校長先生の子どもを思う心を痛感いたします。保護者も改めて、心を洗い直すところがたくさんありますし、中学生の気持ちにかえて、私も参考にしています。いつもありがたく読んでおります。校長先生は子どもが大好きで大好きでたまらないんだな—と思います。
- ・ 本当に勉強させていただいております。忘れそうになっていたことを思い出させていただいたり、これではいけないと反省したりしています。いつもたくさんの「それゆけ三中」を発行していただいてありがとうございます。
- ・ たいへん心に残る学校だよりです。忘れかけていた気持ちを思い出したり、心を洗われる思いの時もあります。ことばをかわしたことのない校長先生がすごく身近に感じられます。
- ・ いつも校長先生のお話はなるほどと感心して読んでいます。たいへん説得力があり、さすがだなと思います。これからもよいお話をお願いします。
- ・ 子どもだけでなく親自身も、自分を見つめ直す機会を与えられたような内容もあり勉強になっています。今後もよろしくをお願いします。
- ・ それゆけ三中はまるで本と同じように内容が充実していて大変為になっています。
- ・ いつも楽しく読んでおり、校長先生のことが身近に感じられます。朝会等でお話をされているようですが、いろいろな機会をとらえて生徒たちにこのような講話をしていただく

と、心に残る何かが生まれると思います。

- ・ 「それゆけ三中」の大ファンです。タイムリーな話題が、優しく穏やかなことばや表現で書かれているので、とても心が癒されます。心の勉強は子どもだけでなく、親も大切であり必要だと思います。「それゆけ三中」は親の教科書ではないでしょうか。御多忙かと存じますが、これからは親も成長できるような話題や情報を提供して下さいますようお願いいたします。
- ・ 毎回、興味深く読ませていただいています。時には「おもしろい。」「うーんやっぱりさすが。」と思います。特に、生徒のよいところは本当によく見ていらっしゃると思心いたします。だめなところばかり目についてしまう親でも、ほめ育てしてあげたらよいのだと気づいていながら、つい叱ってしまう。うるさがられないよう「それゆけ三中」を参考に親も勉強をしたいと思心います。これからもずっと続けてください。
- ・ 私は「それゆけ三中」はわかりやすくとてもためになると思心います。日頃、校長先生とお話する機会のないほとんどの保護者は、これを読んで、校長先生のお考えやお人柄を知ることができ、お忙しい中書いてくださっているんだなあと思うと、とてもありがたい気持ちで読ませていただいています。身近な存在になってまいりました。

③ 教職員の感想等

学級担任に、学校だよりの活用を聞いた回答に次のようなことがあり、ありがたく感じた。

- ア 路傍の石、心の運転手は自分、一粒の米等を道徳の時間に活用した。
- イ 朝読書の大切さの再確認のために活用した。
- ウ 行事への取り組みの総括として活用した。
- エ その時期に必要な内容の時、帰りの短学活での話題として活用した。
- オ 時々、引用し、生徒を諭すために活用した。
- カ 学年部会の時、学習面のお話を担当したが、その資料として活用した。

大人になる練習真っ最中

今、生徒のみなさんは、一人前に自分の力で立派に生活していくために、大人になる練習真っ最中です。練習とは、本番の時、つまり大人になった時、自分の力がすばらしく発揮できるよう、その基礎を身につけ、長続きできるエネルギーを十分に蓄えるトレーニングなのです。

部活動の大会をめざして一生懸命に練習するでしょう。期末試験のため、今までの学習したことを一生懸命復習するでしょう。それらと同じことです。

大人になるための練習とは、別の言い方で言うと「勉強のこと」です。まちがってもらっては困りますよ。学校でする教科の学習だけを勉強と思わないでください。みなさんにとっての勉強とは、その教科ももちろんですが、大人の人と話す言葉遣い、食事の仕方、家での手伝い、料理、集団で生活するマナー、人との約束などなど、みなさんの生活すべてが勉強なのです。大人になるための勉強なのです。しかし、ただ話せばいい、食べればいい、やればいいのではありません。それらの行動には、「考える」「工夫する」「努力する」というような人間的な行動がなければなりません。この小さなひとつひとつの練習が自分を人間としてすばらしく高めていくのです。だから、それらを、つまりは日々の練習をばかにしてはいけません、おろそかにしてはいけません。

練習中ですから、いろいろ間違いや失敗があっても当然です。間違えた時失敗した時、すぐ改めて、よりよいものにすればいいのです。でも、わざと間違えるのは許しません。悪いことと知っていて間違えるのは幼稚というのです。中学生のみなさんにとっては問題外です。

限られた時間を、一日一日を大切に、その練習をコツコツと続けてください。そうすれば、必ずや、すばらしい大人に、常識ある大人になり、近い将来に自分の職業を見つけ、自分のため、世の中のため働く時、活躍することができることを確信しています。

今、みなさんは体も心も大きく伸びる大切な時期です。この数年の時間をどうぞ無駄にせず、大切に過ごして行ってください。2学期もあと3週間となくなりました。寒くなりました。かぜをひかないよう注意してください。

— 5日の学校集會での話 —



学校だより「それゆけ三中」のめざす関連価値一覧

平成12年10月～平成13年11月（発行順）

主 な 内 容	主体等	協調等	健康等	報告等	その他	備 考
大好きさわやか三中生					○	
心を合わせて最高作品を		○				集 会
価値あるもの	○	○				
響いた！魅惑のハーモニー						
大人になる練習真っ最中	○					集 会
より開かれた学校をめざして						
笑い希望と思いやり	○	○				終業式
自分の心の運転手は自分です	○		○			始業式
我が子の非行守って見せます				○		
桃太郎から学ぶ	○					立志式
立春を迎えて	○					
涙涙感動をありがとう	○			○		卒業式
$250 \times 2 \div 5 = 100$	○					
学年活動最優秀大賞		○				修業式
新たな自分を発見する年に	○					始業式
3つの目を持って	○	○	○			入学式
静かに、ただ読む朝読書	○	○				
すばらしい！「三中生の姿」				○		
最高の親孝行	○					
米百俵				○		
中学生のすばらしさを実感				○		
一粒の米	○					集 会
目標を持って・・・	○					
みんなで中学生を育てる				○		
克己復礼			○			
不審者に充分注意					○	
情けは人の為ならず	○	○				集 会
自分を変えようとする姿に拍手	○					終業式
心のふたつの部屋		○				始業式
台風をとらえるための人間の努力				○		
言葉が人を変える			○			
昔も今も同じ家庭学習	○					
一日4回の食事を	○					集 会
もっと咲かそう自分の花	○		○			
まさに興奮・感動・汗・涙	○		○	○		
足利の政治経済文化を考える				○		
ひとりごと	○	○				
お陰様		○				
天国と地獄			○			集 会

4 生徒にとって意義ある学校集会講話、学校だより発行をめざして

- ① 学校集会講話、学校だよりによる校長の話には「校長の人間観、教育観、生徒観、」があからさまに表れてくる。それらが、生徒のみならず、教職員、保護者、地域の方（毎月、民生委員・児童委員会議で配布）にも伝わっているわけで矛盾は許されないし、当然のこと、校長の教育に対する一環した確固たる考えが要求される。

従って、校長は常に、「校内で一番学ぶ人」でなければならないし、「校内で一番研鑽を積む人」でなければならないと自分に言い聞かせている。

- ② 本校の学校集会の時間は、学校の一日のスタートである朝である。年間を振り返ってみると、気温30度近くある暑い体育館の中、5度前後の寒い体育館の中での日も数回あり、適度の時ばかりではない。しかも、一番気になるのは、今の生徒の多くが「夜型生活」であり、朝8時30分頃は、まだすっかりと目が覚めていない状況である。このような時に講話をし、生徒にいい刺激を与えるには、その時の生徒の状況をふまえた講話の方法の工夫も必要だが、やはり、意義ある講話内容と考える。生徒に感動させる、生徒に「そうか、そうだな」と思わせる、まさに生徒の心に突き刺さる話が第1である。そのためには、校長の日々の自己研修、日々のものごとに対するするどい観察、洞察等々により研鑽を積むことが要求されてくると痛感し、今までを振り返り、自問自答している昨今である。

- ③ 学校だよりは、本来、保護者に対し、学校の考え、学校における生徒の生活状況を伝えるものであろう。生徒向けの学校だよりを多くしたのは紙面を通してだが、生徒に直接、訴えたいためである。中学生という時期は、だれでも大なり小なりいろいろな悩み、心配事をかかえているものである。それらを可能な限り自分の力で克服してもらいたいという強い願いがあり、生徒向けの学校だよりを多くしているわけである。

- ④ 校長着任後、各学期末に、7名の本校OB校長に第三中学校近況報告として、学校だよりを主に、第三中学校に関連

笑いと希望と思いやり

12月の校長室の黒板に「心笑えば、眼も笑う。」と書いておきました。第三中学校の生徒のみなさんが、本当に心から笑う人でいてほしいという願いを込めて書きました。その人なりに、何事、最善を尽くした人、本当に自分の周りの人と心から接した人は、間違いなく心から笑うことができたのではないかと思います。「一笑は百慮を忘れる。」ということばがあります。本当に心から笑える人は百の心配事、くよくよしたことを忘れさせ、乗り越えていくことができるという意味です。笑いは生きていくための大切なエネルギーなんです。

さて、いよいよあと数日で21世紀です。多くの人が21世紀、21世紀と言っていますが、どのような世紀なのでしょう。私は、よい世紀になるよう願ってはいますが、第1に大切なことは「自分の希望（夢）を持ち、それに向かって意欲的に、前向きに生活をしていく。」「他人とのいろいろなかわりを大切に。」ことと考えています。よい21世紀になるかどうかは、まずは自分自身の気持ちの持ち方が大事ということです。

みなさんが、自分の希望をきちんと持ち、その実現めざして日々、努力する。自分の周りの人たちと、思いやりのある、心を通わせたつきあいをする。

そして、いつでも、笑いのある家庭生活、笑いのある学校生活が送れるよう願っています。

2学期、たいへんご苦勞様でした。学校行事等において、多くの感動をありがとうございました。3年生のみなさんの、自分の進路決定のための努力を期待しています。よい年を迎えてください。

12、12、25 第2学期終業式挨拶



御支援に感謝 ありがとうございます

2学期が無事終わろうとしています。権木PTA会長さんをはじめとした役員の皆様が第三中学校教育に対する温かな御支援、保護者のみなさまのいろいろなことについての御支援、ただただ心より感謝いたしております。ありがとうございます。おかげさまで、第三中の生徒の集団生活は、落ち着いた、安定したものです。個人個人の問題は当然のことでございます。しかし、第三中の生徒のよさは、即、間違いを認め、その後の行動を改めることです。そこに真の成長があるわけですね。「大人になる練習中」なんです。温かく見守ってください。

年の瀬が迫ってまいりました。御家族そろって、どうぞよいお年を、画期的歴史的瞬間の21世紀をお迎え下さい。御多幸を御祈念申し上げ御礼とさせていただきます。

する資料を送らせていただくことを始めた。そのたびに、手紙、電話あるいは直接に温かな御指導をいただいている。その中で学校だよりに関する次のような御批評を手紙でいただいた。「…次に校長先生の訓話は、これぞ校長先生のお話で『こんこんと湧く泉』と感じました。しかも、『それゆけ三中』の家庭通信、極めて大事なことで、なかなかできないことです。校長訓話は、とかく理攻めに過ぎて学者型になったり、ソツのない紋切り役所型だったり、やたらと褒めたり、ハッパを欠けたり感情型だったり、私の過去を顧みて難しいものです。しかし、先生の訓話は親しみやすく身近の題材をとらえ、不変の真理を生徒に分かりやすく説いています。……」これは、校長着任半年後の3月にいただいた御指導であるが、その後の学校集会講話、学校だよりの内容を考える「教訓」ととらえさせていただいている。先輩の御指導はただただありがたく身が引き締まる思いである。

⑤ 「開かれた学校」のとらえ方はいろいろあるであろうが、今までを振り返ったとき、「学校の考えを開く。」ことにやや物足りなさがあつたのではないかと感じている。保護者に対して、学校の諸考えを伝える機会はあるが、回数的にも内容的にも限られたものであつた。学校だよりは「学校の考えを開く。」いい方法であるし、随時行うことができる利点がある。(生徒を通して保護者に学校だよりが渡らない問題はある。)本校の学校だよりは、生徒向けのたよりを中心に、保護者に「生徒を育て

るための基本的な考え方」を伝えたいとも考え発行している。「開かれた学校の基本は人と人との交流であり、人と人との考えの交流である。」ととらえたい。まだ一方通行であり、課題はあるが、「学校の考えをより開く。」という観点からも発行を続けたいと考えている。

⑥ 学校だよりの内容をその多くを「生徒向け」にした意図のひとつに、「学級担任への話題情報提供」がある。かつて、中学校で4年間学級担任をした時に、朝学活と帰りの学活での「担任としての話」に苦労した記憶がある。ややもすると注意事項の羅列になりがちであり、生徒にとって味気ない時間であろうと反省した。朝は

それゆけ三中

第三中学校だより 平成13年10月2日 発行者・高橋知俊

一日4回の食事を

2日の学校集会の話

いい季節になりました。何をしてもいい気候ですね。まさに秋本番です。スポーツの秋、食欲の秋ですね。

食欲といえば、ある人がこんなことをいったのを記憶しています。「人間は一日に4回食事をしなさい。」ということです。4回も食事をしたら、食べ過ぎだよ、時間的に4回も食べるのは不可能だよ、と思うでしょう。

これは「朝、昼、晩の3回の食事」にもう1回、「文字の食事」、つまり「本を読むという食事」をすることが大切です、ということです。

本は「ドラえもんどこでもドア」のようです。つまり、私たちが昔の時代や未来へ連れてってくれますし、多くの国へ連れてってくれますし、科学の世界へ、文学の世界へと、いろいろな世界へ連れてってくれます。

そして、私達の心を豊かにしてくれるのです。読書という食事によって、心の中に大切な栄養を与えてくれるのです。

今、皆さんは、特別な日を除いて、朝読書を約10分しています。毎日たった10分とはいっても、年間200日として2000分、30数時間読むこととなります。たいへん貴重な時間となります。その他の時間に個人で読書をしている人もたくさんいることでしょう。

先日、学校だより「それゆけ三中」で「言葉が人を変える。」と書きました。その後、ある生徒が校長室に来たので、「だから、あなたも生きぬいて」という本を貸してあげました。数日後、手紙を添えて本を返しにきました。「はじめの方は少し怖かったのですが、読むにつれて感動へと変わっていきました。人間はがんばればがんばった分だけ自分が得をする。新しい道を歩むためには、今しかない。今、がんばり続けたら必ず新しい道を歩める。先に進める。そう信じて少しずつがんばっていきます。(一部)」と書かれていました。本を読んですばらしい栄養を吸収したんですね。

読書の秋でもあります。どうぞ、これからも読書を続け、皆さんの心の中にいい栄養をとり続けてください。



第33回「日展」無料鑑賞券贈呈

- ・日時 11月2日～24日(19日は休館)
- ・場所 東京都美術館(上野公園)
- ・小中学生に無料券贈呈 同伴保護者は当日、1000円を800円に希望者は学級担任へ 4日締め切り(その後申込みます。数日かかる)

10月6～8日を3連休に

- ・今月の13日は第2土曜日で休日ですが、7、8の連休を3連休にするため、6日(第1土曜日)を休日といたします。従って、13日は学校授業日(登校日)です。ご承知おきください。

「今日一日を前向きに生活できるよう」、帰りは「明日の活力になるよう」な担任としての話が必要と思って実践したことを記憶している。だが、その「担任としての話」の毎日の準備はむずかしかつたことが多く、校長としてささやかではあるが、本校の学級担任への話題情報提供を考え発行してきた。このようなことを言わなくても、学級担任は、時々、道徳の時間で、短学活等で、学校だよりを活用しているとのことであり、ありがたく思っている。今後もこのようなねらいも忘れず、内容を熟考し発行していきたい。

- ⑦ 生徒のアンケート調査の回答結果は、予想以上のものであった。特に、学校集会・学校だよりの話はためになるかどうかの問いの回答は、「いつも」「時々」を合わせるとかなりの人数ととらえている。これに甘んじず、今後も、よりよい話し方の工夫、生徒の心に響く話の内容の工夫等をしていきたいと心新たにしている。
- ⑧ 保護者からの感想の中に「それゆけ三中は親の教科書ではないでしょうか。」「たいへん心に残る学校だよりです。」「校長先生の子どもを思う心を痛感いたします。」「保護者も心を洗い直す、心を洗われる・・・」等がある。今後の学校だより発行に「ありがたい励まし」であるとともに「責任の重さ」を感じている。文章の一字一句、行間に含む意図、思い等を読みとられているという保護者の敏感さと学校に対する大きな期待を感じている。回答者の多くが、家族でたよりの内容のことを話題にすることがあるとのことである。中学生になると、ややもすると親子の会話が少なくなる傾向にあると聞く。親子の会話の話題提供になっていることはうれしい限りである。

- ⑨ 集会の基本的な考え、学校だより発行の意図を持ち、1年が過ぎたが、予期しない多くの意義ある副産物を得た。

しかし、生徒に対する学校集会講話のむずかしさは、今なお、痛感しているし、学校だよりによる生徒のよりよき成長を図ることも同様である。校長という立場を続ける限り持ち続ける責任と試練であろう。このまとめを機に、さらに努力をしていきたい。

それゆけ三中

第三中学校だより 平成13年11月2日 発行者・高橋知俊

お陰様

「お陰様（おかげさま）で・・・」日々の人と人との会話の中で、何気なく聞くことができることばです。

私たちは、毎日、多くの人とかかわって生きています。毎日、忙しい生活のため、時には、そのことを忘れてしまいがちです。今日一日のことを振り返ってみると、何人の人とかかわったのでしょうか。直接、かかわらなかったとしても、毎日食べているもの、使っているものを見ると、だれでも、毎日何百人何千人の人とかかわっているのだと思います。そこまで考えなくても、毎日、多くの人と直接かかわって生きていることにまちがいありません。

時には、そのかかわっている人に対して感謝の気持ちを持ちたいものです。「お陰様の気持ち」です。人間でしか持てないすばらしい心の表れです。これが忘れられたとき、私たちの日々の生活はすさんだものになってしまうものと考えます。

「お陰様」このことばはどこからきたのでしょうか。ちょっと調べましたら、確かではないのですが、昔にさかのぼります。

昔、旅人が、暑い夏のひざしをしのぐため木の陰で休んだり、風や雨、雷を防ぐため木の陰で雨宿りをしたりしました。その木の陰に「お」をつけて、さらに「様」をつけて「お陰様」で旅を続けることができたという感謝の気持ちがこめられたのです。木は旅人のために葉を茂らせているわけではありません。木のお陰で旅を続けることができると考える昔の人の心はすばらしいですね。

今、第三中生は落ち着いて、日々、学校生活を送っています。小さな問題は当然のことあります。生徒は「大人になる練習中」ですから、まちがいが時にはあって当然です。未熟ですからいろいろな勉強をしているわけです。全般的に落ち着いて生活しているのは、何とんでも保護者の方々の御協力御支援のお陰と考えています。

「本当にお陰様で・・・」保護者の皆様へ感謝申し上げます。

学校だよりアンケート

御協力ありがとうございました。多くの保護者の皆様から励ましの御感想までいただきました。今後に生かしたいと思っています。



評

「教師は知識の伝達者であり、子供たちが受け取る情報の中心的な提供者であった。しか情報化社会の進展に伴い、子供たちが教師の力を借りずに新しい情報を提供することを可能にした今日、人間が一個の人格者として完成されるには、一人の人間の人格的な働きかけが絶対に必要とされる。もはや教師は単なる知識の伝達者にとどまてはいない。人間対人間の全的な心の交流、感化の力が大切となる。」(足利市立教育研究所所報第23号より要約) 本研究論文を一読させていただいたとき、まさにこの「感化の力」について考えさせられました。

ここに紹介されております数々の講話と学校だよりの内容そしてその行間から、人間の心の温かさを感じられる教師としての校長像がうかび上がってまいります。学校教育目標の具現を目指し、「本校の生きる力」を育成するため、生徒の日々の生活に役立つ、生徒の成長につながるものにしたいという校長としての思い・願いが伝わってまいります。

生徒のよりよい成長を願う教師としての教育的使命感の下、講話におきましては「生きる力」を構成する要素に視点をあて計画的にテーマを設定し、わずか数分という短い時間に十二分な準備をされており、また学校だよりにつきましては、保護者向けでありながらも、生徒向けとしての内容を盛り込み、さらには保護者や生徒、教師の感想をもとに振り返り、よりよい講話・学校だよりを目指しております。

教育者としての使命感、生徒に対する教育的愛情のある教師、あるいは、家庭・地域社会と学校が一体となってみんなで生徒を育てるという開かれた学校が求められております今日、本研究は、これからの講話・学校だよりの在り方を示すことにとどまらず、「感化」を基本とした教育の在り方、求められる教師像について、改めてとらえ直すための実践的研究であります。

ご多忙の中、本市学校教育の充実のため寄稿いただきましたことに深く感謝申し上げ、評とさせていただきます。